

# 僕の、世界の中心は、君だ。

2006(平成18)年8月27日鑑賞(道頓堀角座)

★★★★



監督=チョン・ユンス/出演=チャ・テヒョン/ソン・ヘギョ/イ・スンジェ/キム・ヘスク/キム・ジョン/ハン・ミヨン/オ・ジョンウォン/パク・ヒョジュン/ソン・チャンウィ/キム・ヨンジュン (ワーナー・ブラザーズ映画配給/2005年韓国映画/97分)

……多くの日本人が涙した『セカチュー』(04年)が韓流ラブストーリーの国韓国に輸出されたが、さてその出来は……？ 最高の制服姿を見せ美人薄命を地でいくヒロインは、映画初出演となるソン・ヘギョ。他方、学校一の美女から告白されるヌーボーとした相手役はチャ・テヒョンだが、これが何ともハマリ役……。病気をネタとした(?) シンプルな物語の中に、おじいさんが語る珠玉の初恋物語を挿入したところがミソ……。もっとも、公開初日から客がガラガラなのが気がかりだが、これはタイトルが悪いせい……。それとも、韓流そのものが落ち目のせい……？

## タイトルに異議あり！

この映画はご存知片山恭一の小説を行定勲監督が映画化して大ヒットした『世界の中心で、愛をさけぶ』(04年)の韓国版。原題は『My GIRL & I』。この原題のままでは日本では何の映画かわからないと思い、『セカチュー』の大ヒットにあやかりようとしてつけた邦題が『僕の、世界の中心は、君だ。』だが、このあまりにもミエミエの邦題に私は「異議あり！」……。

あれほど隆盛を誇っていた韓流映画だが、最近はちょっと落ち目……。そんな中で公開されたこの映画を公開初日に観たが、客席はガラガラ。こりゃ一体ナニ？ そのあまりの寂しさに唖然としたが、その一因は邦題のつけ方にあるのでは……？

## 映画初出演なのに……。

『セカチュー』では長澤まさみが演じた薄命のヒロイン役の韓国版スウンを演ずるのは、映画初出演となるソン・ヘギョ。私は韓流テレビドラマをほとんど観ていないのでよく知らないが、彼女は『オールイン・運命の愛』（03年）などのテレビドラマでその人気を確固たるものにした女優とのこと。そんな少女のようなあどけない、汚れないルックスと愛くるしい雰囲気の人々を魅了したソン・ヘギョが、映画へのデビュー作として選んだのがこれ。『セカチュー』にあやかって韓流ラブストーリーの代表作にしたいと思ったのかもしれないし、彼女の演技にケチをつけるところは何もないのだが、公開初日のこの観客の入りではヒットは見込めそうもないこと確実。これではせっかくの映画初出演なのにかわいそう……。

## セーラー服ではないが……？

セーラー服願望というのは日本の男には誰でもあるらしい……？ それはともかく、この映画で女子高生に扮するソン・ヘギョが着るのはセーラー服ではなく、白いブラウスとグレーのプリーツスカートの制服。この映画で何よりビックリするのは、ソン・ヘギョのこの制服姿がバッチリと決まっていること。そこで彼女の年齢を調べてみると、何と24歳……。もっともパンフレットを読むと、ソン・ヘギョが芸能界にデビューしたきっかけは「学生服モデル」だったとあるから、「なるほど」と納得……？

## チャ・テヒョンは適役！

他方、『猟奇的な彼女』（01年）であんなけったいな女（？）チョン・ジヒョンの相手役を無事つとめあげ、この映画ではスホ役となるチャ・テヒョンは、イ・ビョンホンやチャン・ドンゴンなどの「韓国四天王」の一角に入るようなハンサム系ではなく、どちらかというところにいる間の抜けたお兄さん……？ すでに30歳になっている、そんなキャラの俳優が堂々と高校生役をやり、ラブストーリーの主人公とするところがいかにも韓流……？

スウンからのアプローチを半信半疑で受け止めながらも、スウンの心を知っていく中で「これから僕は、君のために笑い、君のために泣き、君のために生きる。僕の、『世界の中心』は君だ。」と宣言するスホだが、これはチャ・テヒョンのキャラだからこそ言える言葉だし、聞いていても信用できるもの。その意味でチャ・テヒョンは実に適役！

## なぜスウンがスホを好きに……？

スホを含めてスホの友人たち、いやもっといえば学校中で不思議なのが、学校一の秀才で美人のスウンがなぜあんないつもボーとしているスホを好きになったのかということ。映画の最初の段階からスウンがスホのことをじっと見つめている上、積極的にスホに対してモーションをかけていくのを見てみると、私も不思議に思えてくる。しかし、その後のストーリー展開を見てみると、スホの良さ、味わい深さが少しずつ見えてくるはず……。

スウンの「Diary」によると、スウンがスホのことを好きになったのは「誰よりも豊かな心を持っているから」だが、この日記を読むと、スウンのしっかりとした男性観に感心……。やっぱり男は見かけではなく、心だよ……！

## 味のあるおじいさんマンガムに注目

『セカチュー』韓国版の特徴は、韓流らしく(?)家族の絆の強さが描かれていること。スウンは裕福で厳格な両親の下で育っているよう。したがって父親はそもそもどこの馬の骨ともわからないようなスホとの交際に反対のはずだが、娘の命が残り少ないと知った彼は何が真に娘の幸せなのかをよく考え、その思いをスホに託することに……。

それ以上にこの映画で大きな重みを持っているのが、スホの祖父マンガムがスホに語って聞かせる初恋の物語。それは1950年代初頭の朝鮮戦争のために、別れなければならなかった初恋の人との淡い物語。人の縁の不思議さや人生の複雑さを高校生なりに思い知らされたスホだったが、この祖父の初恋の物語は、単なる昔話ではなく、映画のラスト近くになって、大きく実を結ぶ(?)ことになるから、ご注目！そして、その内容は、映画を観てのお楽しみに……。

## あの島はどこ……？

行定版『セカチュー』で2人が目指したのは、文字通り「世界の中心」だったが、韓国版のそれは存在しない。したがって、そもそも『セカチュー』の意味が原作とは全く違うことに……。他方、現実には2人が島へ行くストーリーは日韓共通。行定版で2人が行く島は無名の島だったが、韓国版のそれは、釜山の南西に浮かぶ小さな島である霧島<sup>アンゲ</sup>。もっともこれは架空の名前で、ホントは每勿島<sup>メムルド</sup>と小每勿島<sup>ソメムルド</sup>で、これは海上国立公園に指定されている奇岩と紺碧の海で有名な景勝地とのこと。したがって、行定版の小島よりは韓国版の「小島」の方が圧倒的に魅力的……？

## 美しい海と民宿での姿が余計悲しみを……

韓国版『セカチュー』の1つのポイントはこの美しい海だが、その小島にある民宿の中で2人だけで過ごす1泊旅行の持つ意味もすごく重要。ここであなたがすぐにスケベな想像をしてしまうようであれば、あなたはこの映画を観て感動する資格なし……？

2人がここで交わすのはキスだけというところが、韓流ラブストーリーの王道……？ そしてこの美しい小島の絶壁の中で、白いワンピースを着た美しいスウンが突然倒れるから絵になるというもの……。そんな美しい島での美しい姿を観ているだけに、スウンが倒れた後はその悲しみが余計深くなることに……。

2006（平成18）年8月28日記